

第二回 上野松颯会定期能楽会

令和五年七月二十二日(土) 午後一時始

仕舞

蘆刈キリ 三浦 信夫
枕之段 上野 雄介

地謡 西野 翠舟
赤井きよ子
渡邊 瑞子

能

頼政

上野 雄三

江崎欽次朗

間山口 耕道

辻 芳昭
久田舜一郎

野口 亮

後見 上野 雄介
野村 昌司

地謡 西野 翠舟
伊原 昇

渡邊 瑞子
赤松 禎友
上野 朝義
田口 亮二

〈休憩 十五分〉
狂言

蟹山伏

茂山忠三郎

岡村 宏懇
山本 善之

後見 小齊平真路

仕舞

天鼓 上野 朝義

地謡 西野 翠舟
赤井きよ子
前田飛南子
渡邊 瑞子

能

杜若

上野 朝彦

廣谷 和夫

守家 由訓
上田 敦史

中田 一葉
齊藤 敦

後見 赤井きよ子
野村 昌司

地謡 篠崎 珠樹
伊原 昇

上野 雄介
上野 雄三
赤松 禎友
田口 亮二

附祝言 終演予定 十七時頃

『頼政』

諸国を旅している僧(ワキ)が京都から奈良へ行く途中、宇治に立ち寄って辺りの名所を眺めていると、一人の老翁(前シテ)が僧に言葉を掛ける。僧の尋ねるままに、宇治の名所旧蹟を教えたあと、老翁は平等院に僧を誘う。扇の芝を指して、頼政はこの所で自害したのであって、偶然にも今日はその命日であると語り、自分はその頼政の霊であるとうち明けて姿を消す。

僧が読経して帰っていると、法師の姿に甲冑を着た頼政の霊(後シテ)が現れ、治承の夏、高倉院の命によって平家討伐を企て、この宇治で平家と戦ったが、ついにここで辞世の歌を詠んで自害したと語り、なおも回向を願って扇の芝に姿を消すのであった。

『杜若』

諸国一見の僧(ワキ)が東国行脚の途中、三河国八橋で美しく咲いている杜若の花を眺めていると、一人の女シテが現れ、昔在原業平がここに来て、『かきつばた』の五文字を句の頭に置いて、都の妻を思った歌を詠んだ故事を語り、僧に勧めて我が家に招き入れる。

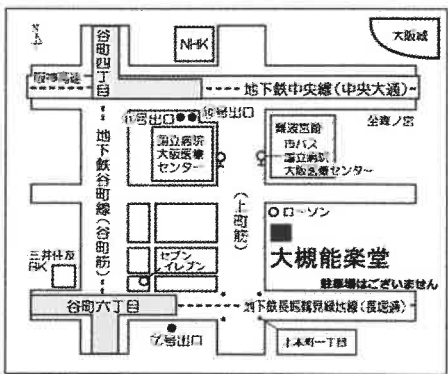
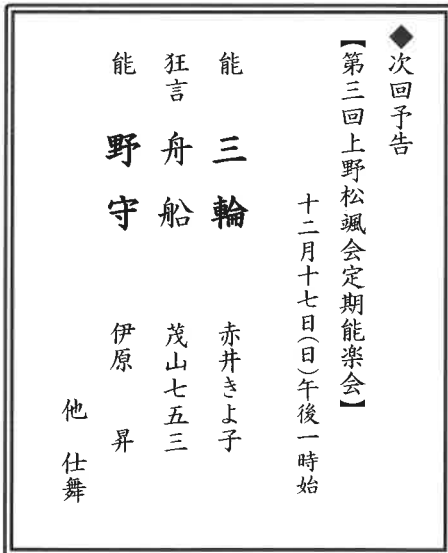
やがて女は業平の冠・高子後の唐衣を身に纏って現れたので、僧が驚いて素性を尋ねると、自分は杜若の精であるとうち明ける。業平は歌舞の菩薩の化身であり、自分はその歌に詠まれた事によって成仏したものであるといい、伊勢物語について語り、舞いを舞う。そのうちに夜が明けていくと、杜若の精の姿も消えてしまつたのであった。

◆次回予告

【第三回上野松颯会定期能楽会】

十二月十七日(日)午後一時始

能 三輪 赤井きよ子
狂言 舟船 茂山七五三
能 野守 伊原 昇
他 仕舞



駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい
○地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、⑩番出口を出て南へ約300mまたは谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車の番出口を出て北に約360m
○バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ
※大阪駅前から62系統「住吉車庫前」行き乗車

※本公演における許可のない写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録画は固くお断り致します

上野松颯会定期能楽会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行っております。ご理解とご協力を宜しく致します。
・ご来場の際はマスク着用、手指消毒、検温、咳エチケットにご協力ください。
・発熱や咳など、風邪の症状がみられる場合はご来場をお控え頂きますようお願い致します。
・又感染拡大状況により、中止または日程変更となる場合は、ホームページ等でお知らせ致します。